

生命環境セミナー

4 units 3rd-year(1st semester, 2nd semester)

Yasuo Oyama · PROFESSOR / DEPARTMENT OF CIVIL AND ENVIRONMENTAL STUDIES

Target) どのような卒業研究を進めるか。それを知るためには、どのような研究が行われているか、知ることが必須である。もし、すでに研究が行われていることを研究しても、それが論文として認められることは少ない。よって、卒業研究に取りかかる最初のステップとして、最近の論文を読んでみましょう。また、英語の力を付けて、レベルの高い大学院の入学試験に確実に合格できるようにします。

Outline) 化学物質の作用評価の論文を読んでみましょう。

Notice) 英語は苦勞しないと上手にならないから、気持ちが悪くなるくらい読むことです。とにかく、「修行」と思って頑張ることです。三時間くらいは連続して、英語を読み続ける忍耐力が必要です。

Goal) 少なくとも何をしたら研究らしいものになるのか、論文が纏められるか、自分で考えることができる。

Schedule)

1. (前期)1-論文を探そう。どうしたら、必要な論文を見つけることができるか。(前期)2-そして、論文の構成はどのようになっているのか。また、(前期)3-どのように英語の論文を読んでいくのか。
2. (前期)4-題目(タイトル)、著者名(オーサー)、研究が実施された場所(アドレス)の持っている意味を教えます。(前期)5-次に、抄録(アブストラクト)の内容の最低条件について解説します。
3. (前期)6-緒言(イントロダクション)から、この論文にどのような流れがあるのか、読み方を話します。緒言が立派でも研究内容はお粗末な論文もあります。
4. (前期)7-さあ、実験方法(メソッド)です。ここは結果(リザルト)を読んでいく中で繰り返し見る可能性があります。どのような条件で実験が行われたのか、重要です。
5. (前期)8-結果(リザルト)を読む時のポイントを解説します。なぜ、そのような実験を行って、何を明らかにしているのか。ここが重要です。
6. (前期)9-結果(リザルト)から導き出されていることが、緒言で書かれていること沿っているか。全く関係がないことをしている可能性もあります。実験の構成をチェックしてみましょう。
7. (前期)10-結果(リザルト)に沿った考察(ディスカッション)が行われているか、考えてみましょう。(前期)11-そして、示唆、推論あるいは結論はまともなのか、引用文献(リファレンス)の内容まで含めて、話し合います。

(前期)12-何が不足しているか、批評しましょう。(前期)13-さあ、自分なら、どうするか?ここを考えてみましょう。(前期)14-論文を審査することをレビューと言います。論文のレビューをしてみましょう。(前期)15-ここまでの講義を振り返り、論文をどのように評価するのか、確認しましょう。

8. (前期)16-これで論文の読み方は理解できると思います。読み方の試験をします。
9. (後期)1-および 2-論文はのんびりと読んでも駄目です。必要な情報を必要なだけ取る。1-緒言から、2-方法から、何を読み取るか、訓練します。
10. (後期)3-分子レベルの作用影響評価の論文に目を通します。(後期)4-細胞レベルの作用影響評価の論文に目を通します。(後期)5-臓器レベルの作用影響評価の論文に目を通します。
11. (後期)7-英語に慣れてきたか、ここでチェックします。
12. (後期)8-および 9-自分の実験の論文を書いてみよう。8-題目、著者名、研究を実施した場所、9-緒言。実験は夏休みに行います。
13. (後期)10-および 11-自分の実験の論文を書いてみよう。10-緒言の続き、11-方法。
14. (後期)12-および 13-自分の実験の論文を書いてみよう。12-結果、13-ここの結果。
15. (後期)14-自分の実験の論文を書いてみよう。さあ、考察に入ります。
16. (後期)15-および 16-自分の実験の論文を書いてみよう。15-考察の続き、16-引用文献、多分、間に合わないで冬休みを十分に使います。

Evaluation Criteria) 読んだ論文一つにつき十点。通年の科目ですから十篇は読んでもらいます(つまり百点を目指して勉強してもらいます)。

Re-evaluation) ありません。

Textbook) 化学物質の環境影響評価に関する論文を国際的なジャーナルから選んでもらいます。

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219376>

Contact)

⇒ Oyama (総合科学部 3号館 3N06, oyama@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (Office Hour: 論文の英語が理解できないときは、早め早めに質問しなさい。午前8時から午後5時までならば、特に時間は設定しません。)